

## ” お久しぶり会 Part2 ”

当初、

2020/10/17（土）に予定していた本企画は、雨で中止となりました。

この事を見越していた企画者は、予備日を10/21と設定していたのです。

この日は、

素晴らしい秋晴れの天気となり！！Nメンバー13名が集いました。



もう一人は、

カメラの後ろに居ます。

それを加えて13名。

① 写真撮影の間、マスク無し

## 本日の訪問先周辺

- |                        |                               |
|------------------------|-------------------------------|
| ① 今城塚古代資料館             | ： 集合場所、駐車場有（無料）入館料：無料         |
| ② 今城塚古墳                | ： 木が鬱蒼と茂り、方向が分かり難い。迷い子になりそう。  |
| ③ 鬪鶏野神社                | ： なんと読むか知っていますか？ 答え⇒つげの神社     |
| ④ ハニワ工場公園              | ： 大きな登り窯が18本もありました。 入場料：無料    |
| ⑤ Sunnyside Restuarant | ： 各種パンと飲み物を販売。食べながら、おしゃべりもよし。 |



さて、私達は、二手に分かれ、

### Aグループ（会話中心・頭脳活性班）は、

① ⇒ ② ⇒ ⑤のコースを取りました。 Aグループからのご報告。

私達は、今城塚古代歴史館に、6名で入館しました。

高い天井と広いエントランスにのびやかな気持ちになり、  
特別展『三島埴輪展』への期待も高まります。

出土した展示品（土器・須恵器・埴輪、装飾品）にかけられた  
研修者・作業者の皆さんの古墳ラヴ?を感じました。

ご一緒した会員のNさんの分かりやすい説明は古墳の定義や天皇の系図の面白さに及び、  
「へ〜」と頷きながらその面白さに興奮してしまいました。

貸し切りのような気分の振舞いだったことを反省しています。

また、当時の古墳づくりの再現である大きな模型は、  
圧巻であると共に為政者の顕示欲の大きさも感じました。



特別展の最後、

受付の方にパンフレットについて尋ねたところ、英語版の二種類を頂くことができました。

「いつの日か、MISCAの皆さんとご一緒できたらいいな」と  
楽しい想像がモクモクと湧き、博物館を出ました。

秋晴れの青空に見守られて古墳公園を散策し、

さらりとした気持ちの良い空気に包まれたひと時。今日は文化の秋、食欲の秋の一日でした。

後は近くのパン屋さん⑤で熱々のカレーパンをgetして、お喋り三昧のテラス席でした。





**Bグループ（足腰中心・体力活性班）は、**

②（前方後円墳の上、周囲を説明を受けながら散策）

⇒ ②のお堀址で昼食、おしゃべり付き

⇒ ③闘鶏野神社は名神高速道路の向こう側にあり、急な階段を上って名神を越える。

⇒ ④ハニワ工場公園には18本の登り窯があり、千数百年前の巨大工場跡に驚くばかり

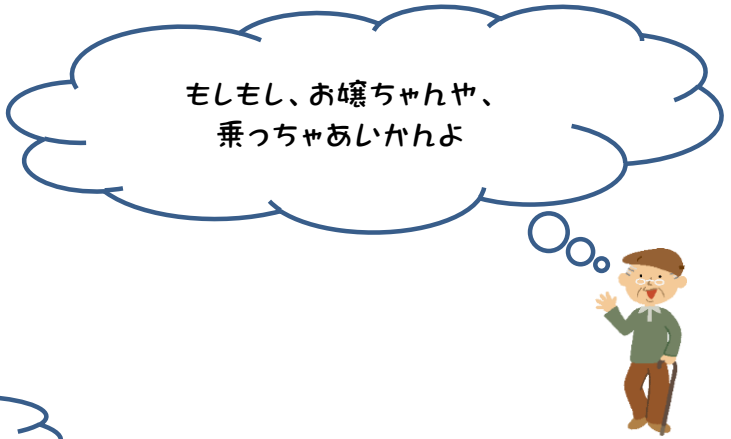
⇒ ④を散策後解散、一群はバス停へ

⇒ ④を散策後解散、もう一人は、モーターバイクを置いている①へ

（途中で足が攣ってきた。ハーッ！泣きそう。①に戻って11,000歩）

この経路を順に写真で紹介します。

**② 今城塚古墳**





当時、墳丘の周囲には二重の堀が掘られました。

現在、半分は埋め立てられ、市民の憩い場になっています。

この墳丘は、1596年に発生した、

慶長伏見大地震（マグニチュード7.25～7.5）で地崩れを起こし変形したそうです。



子供達が遠足に来ていました



緩急のある散策路



足元注意！

木々は鬱蒼と茂り、方向感覚を失います。  
迷い子になりかけました。  
トホホッ！



### ③ 鬪鷄野神社



長い階段を登りきると、  
そこには神社を望む橋が架かっています。



今城塚古墳との間には、  
名神高速道路があって、それを越える為に  
長い階段を上らなくてはなりません。

道中、  
金木犀が、心地よい芳香を放っていました。

橋の下には”名神高速道路”



鶏鳴が神託を告げると言う事で、鬪鷄野（つげの）神社と謂われる。





#### ④ ハニワ工場公園

丘の斜面に建設された当時、周囲は燃料となる木々が生い茂っていたでしょうが、現在は、マンション群が背後に建ち並んでいます。



公園内は綺麗に整備されています。陶器製の説明板がそこかしこにあり、古の風景を思い浮かべ、心落ち着くひと時を過ごせます。



千数百年前に、  
18本の登り窯！！

近隣のみならず  
遠く、  
九州や  
関東へも  
出荷されたとか。

広い交易圏が  
あったんですね！！！！



工房での作業風景(想像図)